

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	練習船実習 (機関)
科目基礎情報					
科目番号	0389		科目区分	専門 / コース必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	鳥羽丸実習ノート 適宜、作成資料を配布				
担当教員	山野 武彦				
到達目標					
<p>1.実船による実習と船内生活の体験を通じて、船舶の運航に必要な基礎的な技術・知識を養い、また、船員の職務・習慣を認識することを目標とする。</p> <p>2.実習は、座学で学んだ内容を実践で実習して体得することを目標とする。</p> <p>3.各機器の取り扱いを熟知するとともに必要な技術を習得し、機関士として船舶を運航するために必要な知識を確実に身に付ける。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	船内生活を通じて、基礎的な技術・知識・船員の職務・習慣を十分理解し説明できる。		基礎的な技術・知識・船員の職務・習慣を理解できる。		基礎的な技術・知識・船員の職務・習慣を理解できず、説明できない。
評価項目2	座学での内容を十分理解し実習中に行うことができる		座学での内容を理解できるが実習中に行うまでは、できない。		座学での内容を理解できない。
評価項目3	実習内での作業を率先して行い、技術や知識を習得できる。		実習内での作業を行い、技術や知識を、ある程度理解できる。		実習内での作業を行うが、技術や知識を、理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育目標 (B2) 海事技術者として必要な基礎知識 教育目標 (B3) 海事技術者としての専門知識					
教育方法等					
概要	先ず、慣海性を養う。船上実習や座学を行うことで、船舶の運航に必要な基礎的な技術・知識を身に付け、船舶職員として要求される船内の安全維持と災害防止等を理解する。				
授業の進め方・方法	座学と現場実習を班分けして進め、実習は安全に留意し、時間の厳守、船内秩序維持のための数々の習慣を守る。				
注意点	前回までに実施した実習内容は、すべて体得していることを前提として実習を行うので、前回までの実習内容は必ず復習しておくこと。 評価は、実習態度、出席 (乗船) 等を総合して評価し60点以上を合格とする。病欠等やむをえない事由で乗船できなかった場合は、補講を行い、可能な限り乗船実習に替える。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	機関当直	各機器の取り扱い及び操作方法の習熟、当直業務の遂行、機関室プラントの習熟	
		2週	応急作業	電気溶接を用いて、配管の作成方法が理解できる	
		3週	内燃機関開放復旧作業	小型内燃機関のピストン抜き出し、各部計測、復旧までできる	
		4週	船用品の管理	機関部で使用使用する船用品の名称、用途を理解する	
		5週	機器整備	電動機の開放、玉軸受け取替作業ができる	
		6週	機器整備	清浄機回転体の開放と内部構造の説明ができる	
		7週	機関日誌記載要領	英語を用いて機関日誌が記載できる	
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	乗船・実技	合計
総合評価割合	0	0	0	30	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	20	0	60	80
専門的能力	0	0	0	10	0	10	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0